2026年度第2四半期（中間期）決算説明会

2026年11月5日

© Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.

本日の出席者



伊藤 毅
代表取締役社長
兼 CEO

発表
Q&A



越路 和朗
執行役員
CFO

発表
Q&A



ピーター・サルスティグ
執行役員
チーフ メディカル オフィサー

Q&A

Agenda

01　エグゼクティブサマリー　……P. 4

02　第2四半期（中間期）業績と通期予想　……P. 8

03　Appendix　……P. 13

© Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.

決算サマリー

2026年度第2四半期（中間期）業績



- 売上収益：1,433億円（前年同期比+3.9%）、コア営業利益：239億円（同+7.3%）
- 売上・利益ともに下半期偏重のため、通期予想に対して想定通りの進捗

事業関連アップデート



- 日本で、昨年度のセタネオ（緑内障）に続きロープレッサ（緑内障）を上市
- 中国でSTN10**127**00（近視）、アジアでSTN10**138**00（眼瞼下垂）を申請
- Advanced Vision Science社をSpyGlass Pharma, Inc.へ譲渡

株主還元



- 中間配当21円/株、期末配当予想21円/株（年間配当予想42円/株、4円増配）
- 350億円（上限）の自己株式取得を決議（2026年11月6日～2027年5月10日）

日本医療用医薬品概況

短中期での成長を支える主力品

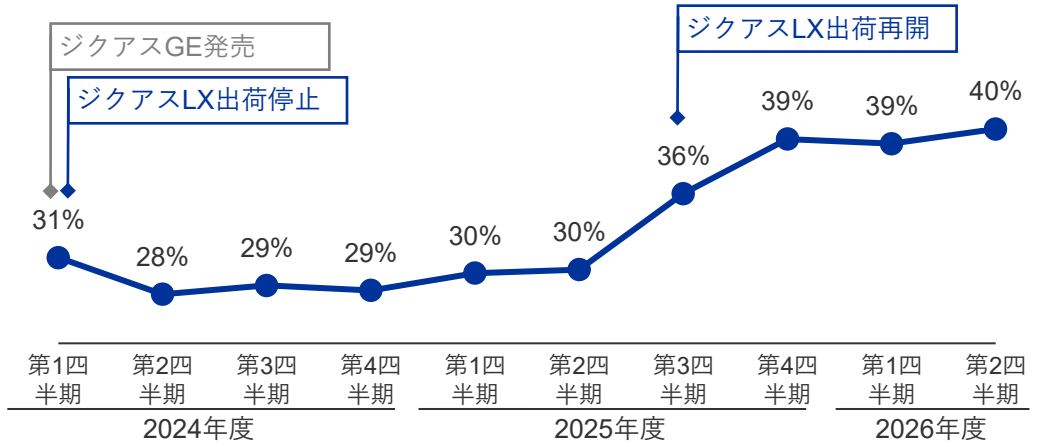
アイリーア類[1]

- バイオAG[2]の貢献もあり通期売上予想に対して進捗率48%と順調
- 引き続き8mg製剤の浸透を促進

ジクアス類

- ジクアスLXへの切替に伴いシェアは着実に上昇
- 製品特性浸透活動の強化により一段の成長を図る

ジクアス類市場シェア（金額ベース）[3]



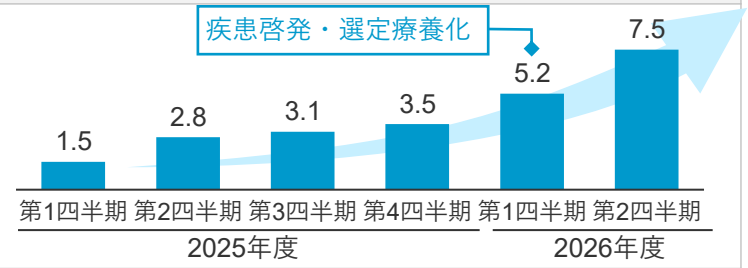
アレジオン類

- 花粉飛散シーズン（第4四半期）に向けて、杏林製薬との共同販売促進による眼科外医療機関へのプロモーションを強化

中長期の成長ドライバーとして期待している新製品

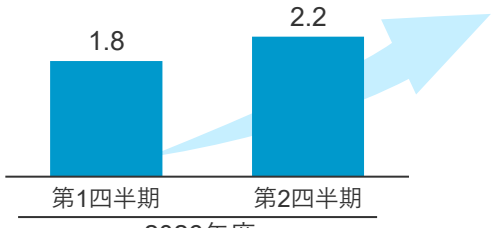
リジュセア

- 疾患啓発活動及び選定療養化により売上拡大
- 疾患啓発活動を通じて疾患・治療の認知を広め処方本数拡大を図る

10月末採用眼科数（2026年度目標）	売上収益推移（億円）
約4,100（4,000）	

アップニーク

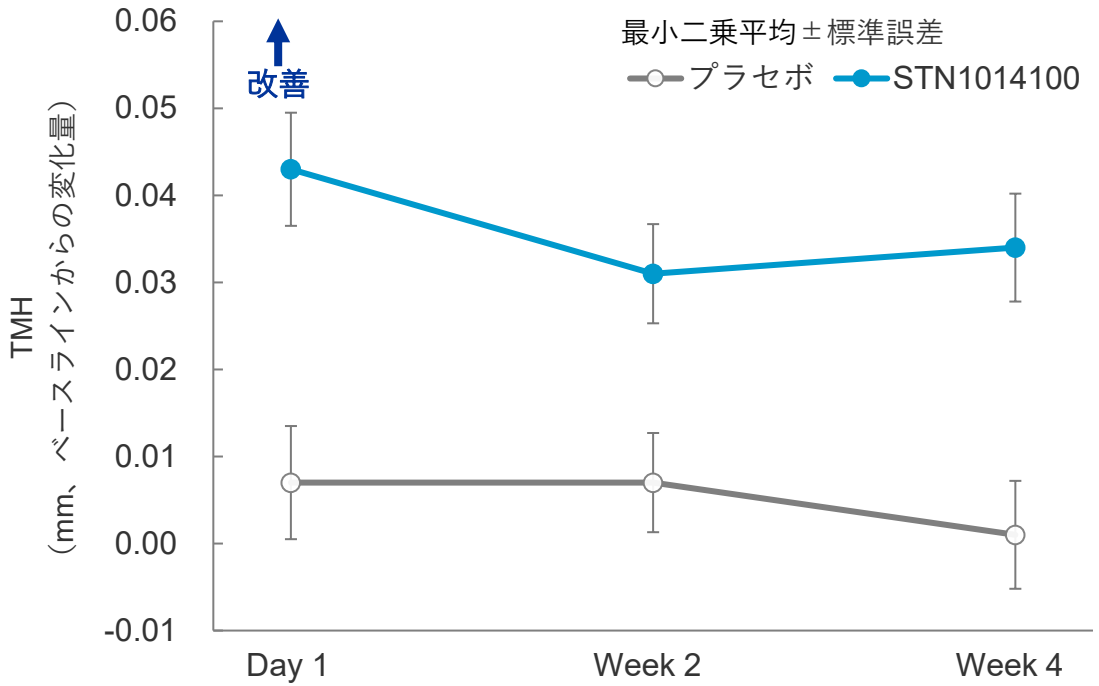
- 医療機関での速やかな採用を達成
- 眼科機関での疾患・治療特性への理解を浸透させ処方本数拡大を図る

10月末採用眼科数（2026年度目標）	売上収益推移（億円）
約4,800（3,500） 参考：眼科外納入施設 約3,000軒	

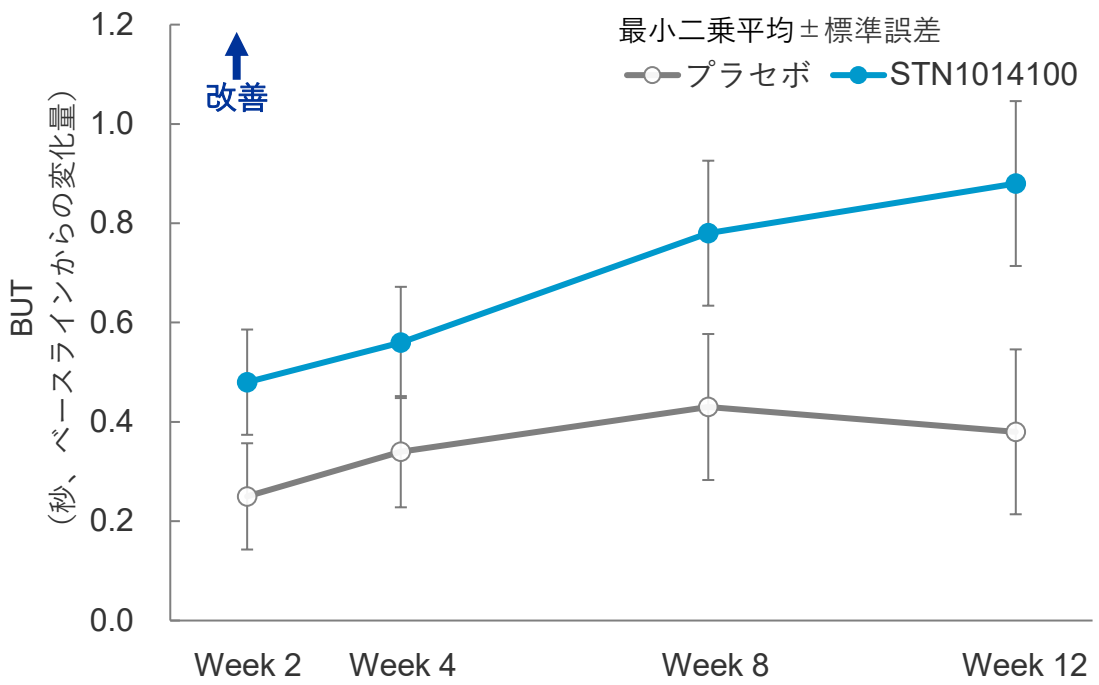
1 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品（眼科用VEGF阻害剤「アイリーア」「アイリーア8mg」）及びバイエルライフサイエンス株式会社が製造販売元の「アフリベルセプト「バイエル」」を含む。販売会社（参天製薬）ベースでの実績。2 アイリーアと有効成分、製法などが先発品と同一のアフリベルセプト「バイエル」 3出典：Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2024.4-2026.9を基に当社分析 無断転載禁止

STN1014100：ドライアイを対象としたP2b試験結果

■ 主要評価項目：涙液メニスカス高（TMH）



■ 副次評価項目：涙液層破壊時間（BUT）

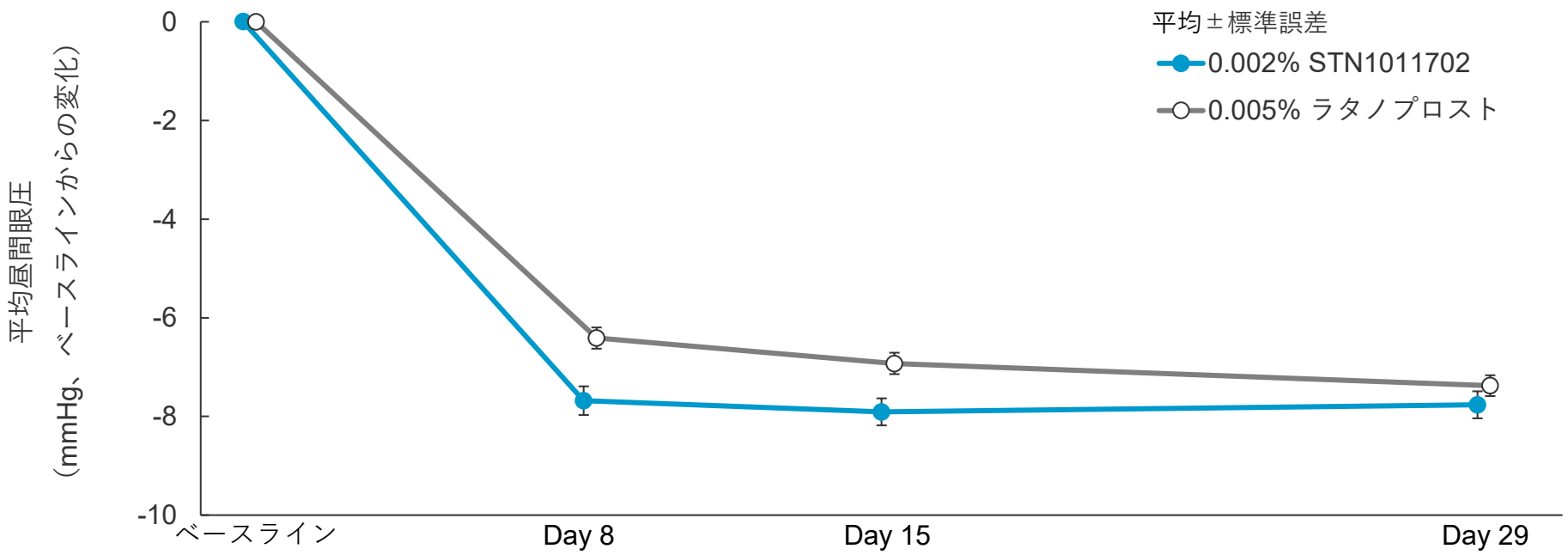


- STN10**141**00の1日1回点眼群は投与後4週間におけるTMHにおいてプラセボ群に対して統計学的に有意な改善効果を示し、主要評価項目を達成
- 副次評価項目であり日本でのガイドライン[1]で重要視されているBUTにおいても、良好な結果が示された
- 重大な安全性上の懸念は認められず、忍容性は概ね良好と考えられた

1ドライアイ診療ガイドライン

STN1011702：緑内障を対象とした中国でのP3試験結果

■ 主要評価項目：平均昼間眼圧



- 0.002% STN10**117**02群は投与4週間後における日中のベースラインからの平均眼圧変化値において0.005%ラタノプロスト群に対して非劣性を示し、主要評価項目を達成。日本で実施された試験の結果ともおおむね一致した。
- 安全性に関しても、新たな問題は見いだされず、中国人でのSTN10**1170**2の忍容性が確認された

	2025年度 第2四半期実績	2026年度 第2四半期実績
USドル（円）	146.23	159.50
ユーロ （円）	167.79	184.35
中国元 （円）	20.39	23.47

2026年度第2四半期実績

（単位：億円）

	2025年度 第2四半期		2026年度 第2四半期				
	実績	対売上収益比率	第1四半期 (4-6月)	第2四半期 (7-9月)	実績	対売上収益比率	対前年同期増減率
売上収益	1,379	-	690	743	**1,433**	-	**+3.9%**
売上原価	607	44.0%	290	316	606	42.3%	-0.2%
売上総利益	772	56.0%	400	427	**827**	**57.7%**	**+7.1%**
販売費及び一般管理費	425	30.8%	233	233	466	32.5%	+9.7%
研究開発費	124	9.0%	61	61	121	8.5%	-1.9%
コア営業利益	223	16.2%	106	133	**239**	**16.7%**	**+7.3%**
ノンコア費用	-	-	2	1	4	0.3%	-
製品に係る無形資産償却費	44	3.2%	23	18	41	2.9%	-7.2%
その他の収益	4	0.3%	1	0	1	0.1%	-72.2%
その他の費用	4	0.3%	0	1	1	0.1%	-62.5%
営業利益	179	13.0%	81	113	**194**	**13.5%**	**+8.4%**
金融収益	9	0.6%	10	6	15	1.1%	+73.0%
金融費用	12	0.8%	7	3	11	0.8%	-7.1%
税引前中間利益	176	12.8%	83	115	199	13.9%	+12.6%
法人所得税費用	38	2.7%	11	32	44	3.1%	+15.9%
（税負担率）	*21%*	-	-	-	*22%*	-	*+0.7pt*
中間利益	139	10.0%	72	83	**155**	**10.8%**	**+11.7%**
親会社帰属中間利益	139	10.1%	72	83	154	10.8%	+10.8%
EPS 円	42	-	-	-	48	-	+15.1%
EBITDA	271	-	-	-	284	-	+5.0%

■ 売上収益

- 日本での主力品の市場拡大再算定、及びバイオAG[1]上市・浸透の影響を海外の成長でカバーし増収

■ 売上原価

- 製品構成の変化により原価率が低下

■ 販売費及び一般管理費

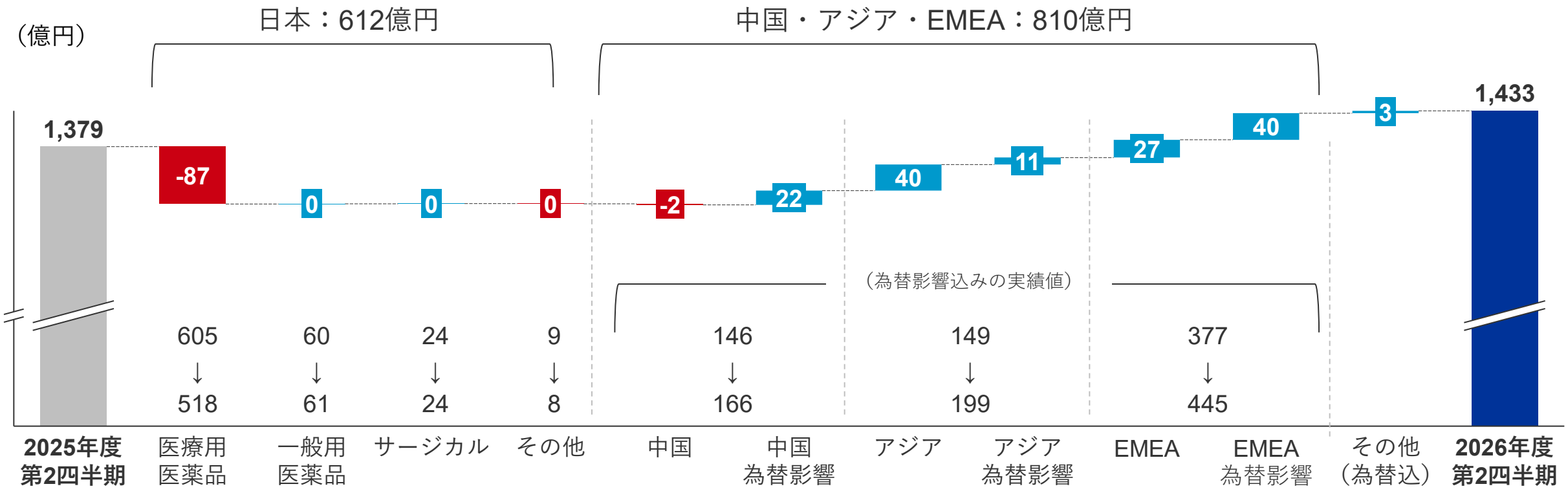
- 為替影響を除くと微増（+3.0%）

■ コア営業利益

- 海外の堅調な推移に加え、コスト管理や為替等により増益
- 増益+7.3%（円建）、+0.4%（為替影響除外）

1 有効成分、製法などが先発品と同一のバイオ医薬品

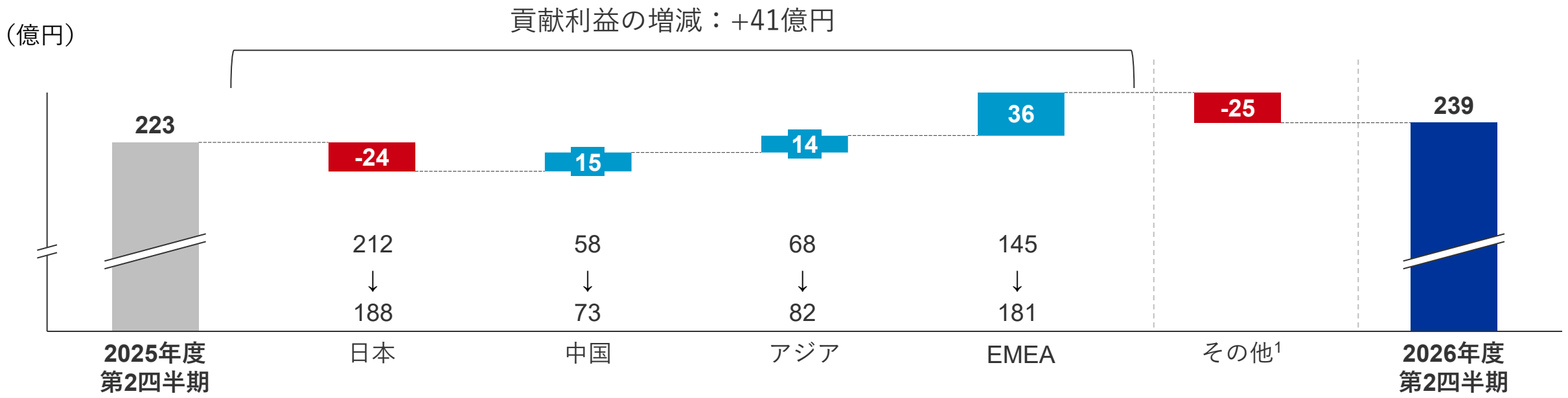
2026年度第2四半期売上収益増減要因



日本	前年同期比 -12.4%：新製品の浸透を図るも主力品の市場拡大再算定（2025年8月）を含む薬価改定の影響等により減収
中国	前年同期比 +13.6%（為替影響除外 -1.2%）：クラビットなどの注力品の堅調な推移及び為替影響が寄与
アジア	前年同期比 +33.6%（為替影響除外 +26.6%）：韓国販売提携品（VEGF阻害薬）に加え、緑内障やドライアイ製品の成長が貢献
EMEA	前年同期比 +17.8%（為替影響除外 +7.1%）：コソプト、Ikervisの着実な成長が貢献

※顧客の所在地をもとに国または地域に分類。 EMEA：欧州・中東・アフリカ地域。香港は中国に含む

2026年度第2四半期コア営業利益増減要因



地域事業 貢献利益の増減	日本 前述の減収に伴う粗利の減少（約-14億円）、疾患啓発等販促費用等の増加等 海外（為替影響込み） 製品の価値最大化による売上成長及び費用最適化により全地域で増益 （前年同期比（為替影響除外）：中国+26.7%（+9.9%）、アジア+20.5%（+14.4%）、EMEA +24.5%（+12.8%））
その他増減	前年度の在庫評価減戻入の反動や間接部門費用の為替影響等。間接部門費用は計画内に抑制

1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用等、及び上記以外の地域に関連する貢献利益。※香港は中国に含む

	2025年度 通期実績	2026年度 通期予想
USドル（円）	150.79	155.00
ユーロ （円）	174.71	180.00
中国元 （円）	21.29	23.00

2026年度通期業績予想（5月12日開示より変更なし）

（単位：億円）

	2025年度		2026年度			
	実績	対売上収益比率	予想	対売上収益比率	対前期増減率	第2四半期進捗率
売上収益	2,916	-	**3,110**	-	**+6.6%**	**46.1%**
売上原価	1,219	41.8%	1,250	40.2%	+2.6%	48.5%
売上総利益	1,697	58.2%	**1,860**	**59.8%**	**+9.6%**	**44.5%**
販売費及び一般管理費	890	30.5%	995	32.0%	+11.8%	46.9%
研究開発費	256	8.8%	275	8.8%	+7.6%	44.2%
コア営業利益	551	18.9%	**590**	**19.0%**	**+7.0%**	**40.6%**
ノンコア費用	12	0.4%	10	0.3%	-13.5%	
製品に係る無形資産償却費	88	3.0%	77	2.5%	-12.2%	
その他の収益	70	2.4%	2	0.1%	-97.1%	
その他の費用	44	1.5%	10	0.3%	-77.2%	
営業利益	478	16.4%	**495**	**15.9%**	**+3.6%**	**39.2%**
金融収益	16	0.6%	18	0.6%	+9.8%	
金融費用	20	0.7%	15	0.5%	-24.8%	
税引前当期利益	474	16.3%	498	16.0%	+5.0%	39.9%
法人所得税費用	99	3.4%	103	3.3%	+4.2%	
（税負担率）	*21%*	-	*21%*	-	-	
当期利益	376	12.9%	**395**	**12.7%**	**+5.2%**	**39.2%**
親会社帰属当期利益	374	12.8%	400	12.9%	+7.0%	38.6%
ROE [1]	13%	-	15%	-		
EPS（円）[1]	114	-	128	-	+11.9%	37.7%

■ 売上変動要因

日本

- 新製品を含む主力製品の浸透
- 第4四半期における花粉飛散量

海外

- 中国の継続的なリカバリー
- 製品の安定的な調達

■ コア営業利益変動要因

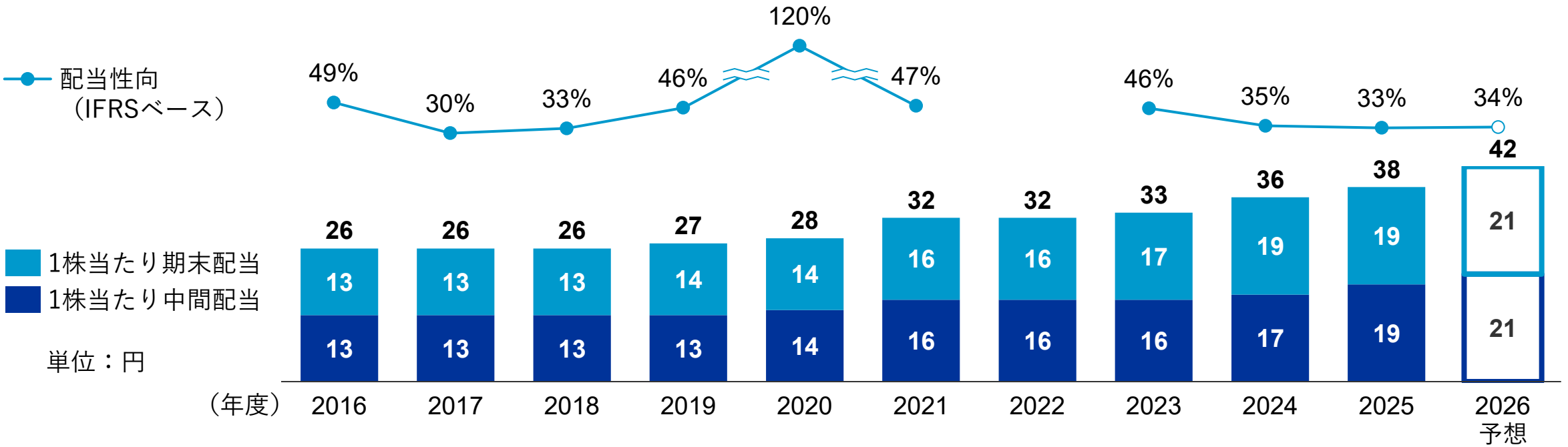
- 売上・粗利の変動に応じた販管費の最適化により、利益最大化に注力
- 中東情勢に起因するコスト上昇圧力はP&L全体で吸収

1 2026年度予想は自己株式の取得の影響を考慮しています

株主還元

配当：年間4円増配の年間42円/株（中間21円/株、期末21円/株）。期初予想から変更なし

自己株式取得：余資水準と今後の事業開発投資への資金余力を勘案し、上限350億円の取得を決定



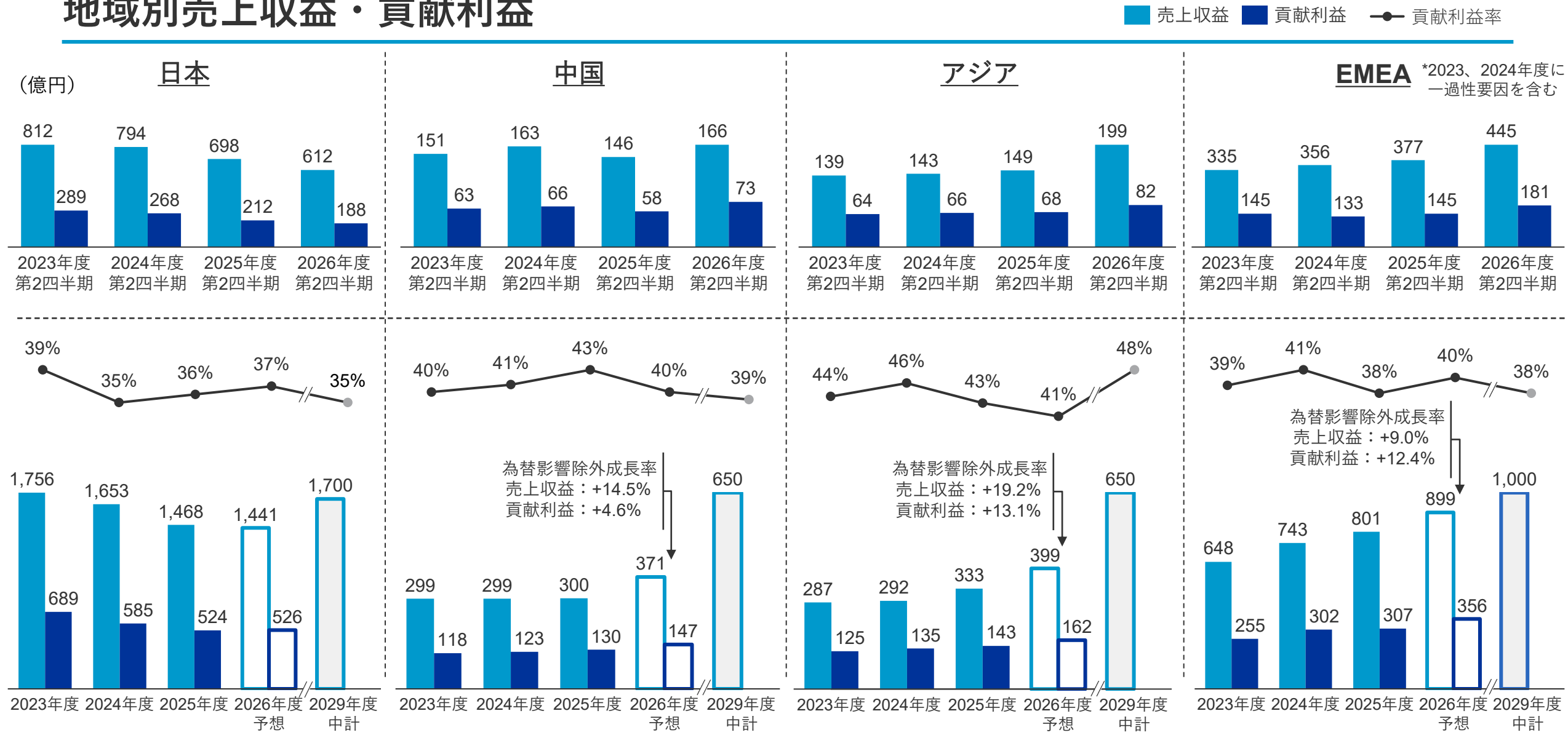
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026予想
総還元性向（IFRSベース）	106%	30%	76%	46%	120%	47%	-	106%	137%	118%	123%[3]
自己株式取得金額[1]（発行済株式に占める割合[2]）	123億円（2%）	-	139億円（2%）	-	-	-	257億円（6%）	162億円（3%）	371億円（6%）	319億円（6%）	上限350億円（5%）

1 市場買い付けにより取得した金額　2 各年度の前期末の発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合　3 350億円の自己株式取得を実施した場合として試算

Appendix

© Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.

地域別売上収益・貢献利益



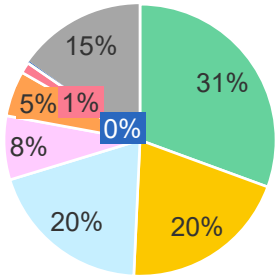
貢献利益：各地域の売上収益からその地域の売上原価および売上創出に関連する費用を控除したもの。貢献利益の算出には各地域事業に直接貢献する売上収益を用いており、必ずしも仕向地別売上収益と一致しておりません。香港は2023年度まではアジアに、2024年度以降は中国に分類されています。

2026年度第2四半期 仕向地域別売上収益

連結合計

（億円）	2025年度 第2四半期	2026年度 第2四半期
アイリーア 硝子体内注射液[1]	364	267
コソプト 配合点眼液	132	154
タプロス点眼液	79	81
その他	804	932
合計	1,379	1,433

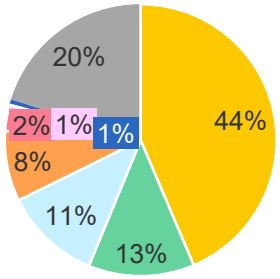
2026年度 第2四半期



日本

（億円）	2025年度 第2四半期	2026年度 第2四半期
アイリーア 硝子体内注射液[1]	364	267
アレジオン点眼液[2]	62	51
ジクアス点眼液[3]	35	49
その他	238	245
合計	698	612

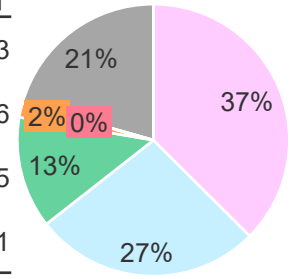
2026年度 第2四半期



中国

（億円）	2025年度 第2四半期	2026年度 第2四半期
クラビット点眼液	42	53
ヒアレイン点眼液	42	36
フルメトロン点眼液	12	15
その他	50	61
合計	146	166

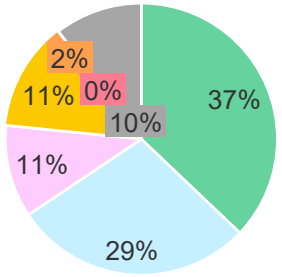
2026年度 第2四半期



アジア

（億円）	2025年度 第2四半期	2026年度 第2四半期
コソプト 配合点眼液	34	39
ヒアレイン点眼液	20	26
Beovu	-	19
その他	96	116
合計	149	199

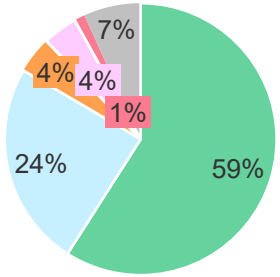
2026年度 第2四半期



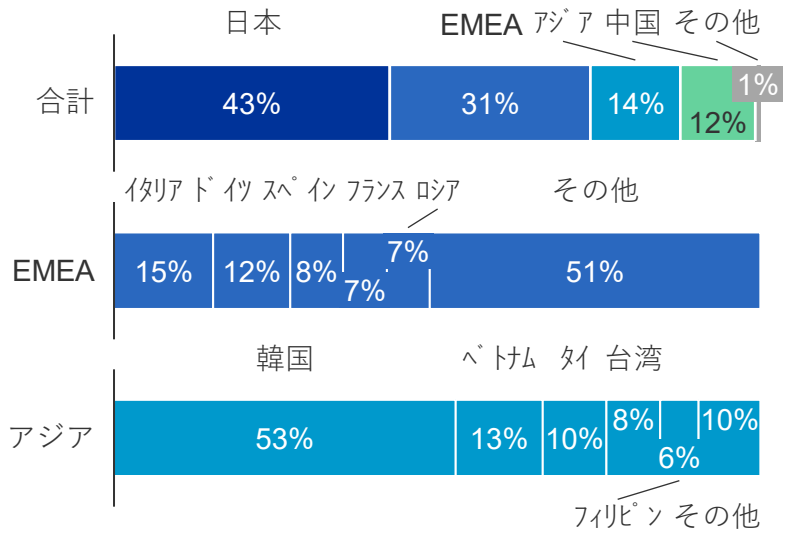
EMEA

（億円）	2025年度 第2四半期	2026年度 第2四半期
コソプト 配合点眼液	89	108
Ikervis	51	64
タプロス点眼液	43	45
その他	195	228
合計	377	445

2026年度 第2四半期



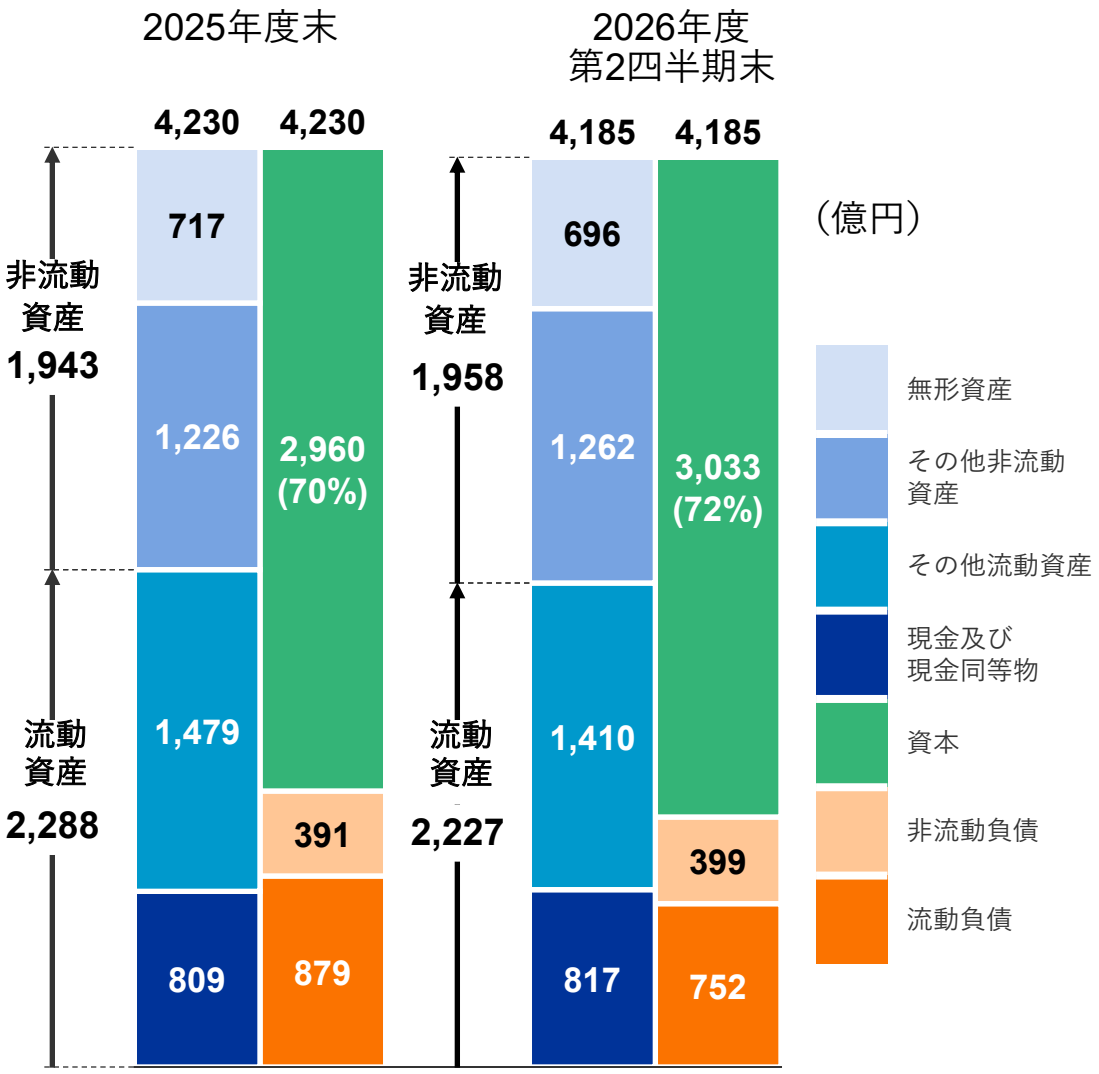
主要国・地域別売上比率（2026年度第2四半期）



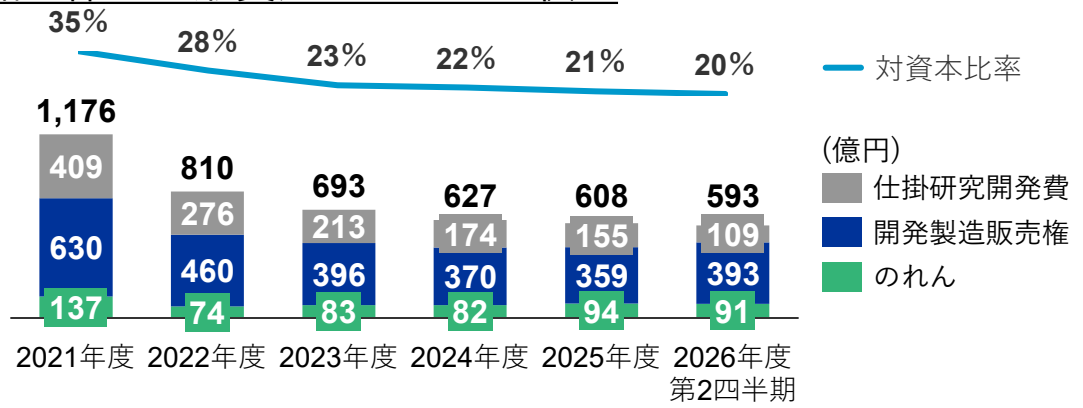
抗緑内障治療剤/デバイス　角膜疾患治療剤　抗アレルギー点眼剤　眼瞼下垂治療剤
VEGF阻害剤　抗菌点眼剤　近視進行抑制治療剤　その他

1 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品。アイリーア8mg、及びバイエルライフサイエンス株式会社が製造販売元のアフリベルセプト「バイエル」を含む
2 アレジオン: 提携パートナーであるBoehringer Ingelheim KGの商標。アレジオンLX・アレジオン眼瞼クリーム・エピナスチン塩酸塩点眼液・エピナスチン塩酸塩LX点眼液を含む　3 ジクアスLXを含む

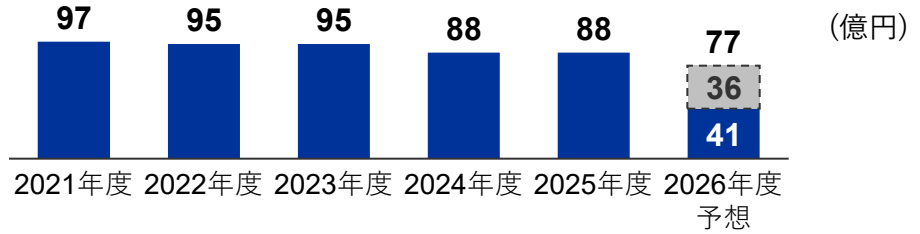
B/Sを含む財務状況



製品に係る無形資産・のれんの状況



製品に係る無形資産償却費の状況

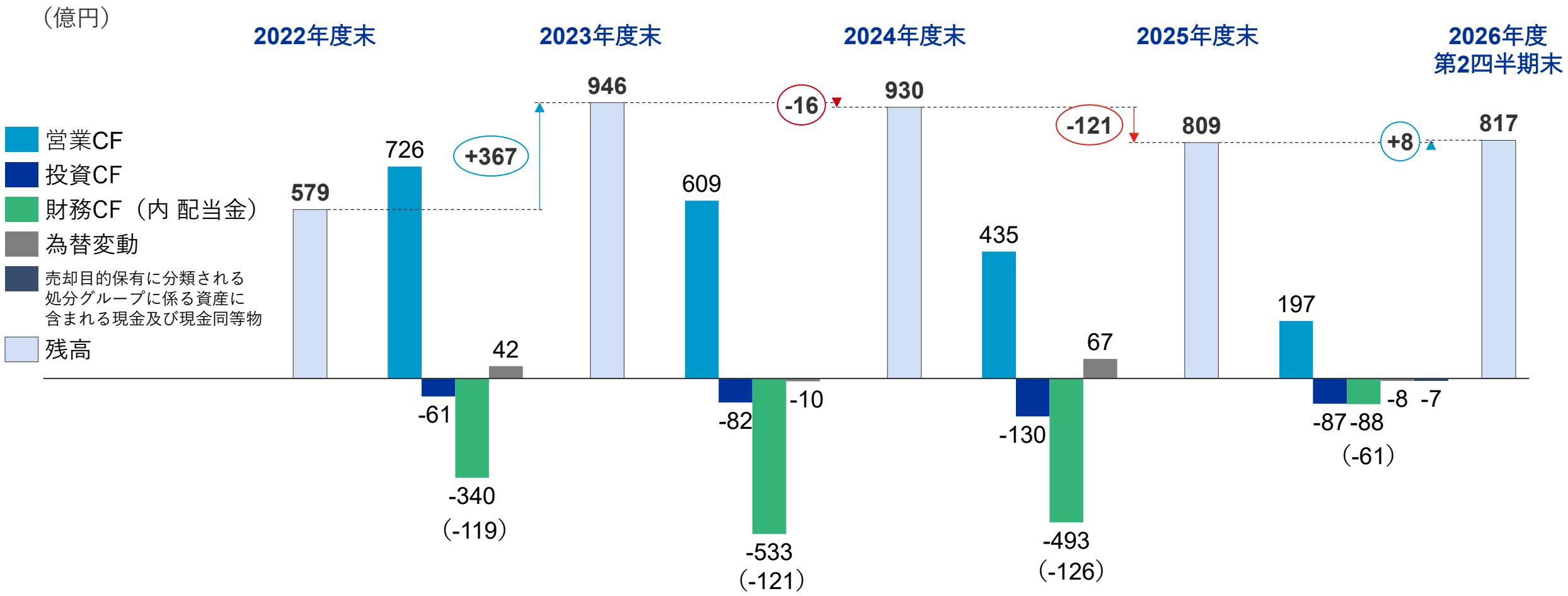


ROE・ROIC・CCC[1]

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 第2四半期	2026年度 予想[2]
ROE	8%	-	9%	12%	13%	-	15%
ROIC	12%	-	16%	18%	19%	-	18%
CCC	190日	194日	167日	170日	223日	225日	210日

1 キャッシュ・コンバージョン・サイクル：売上債権、棚卸資産、事業関連費用の回転日数をベースに算出　2 ファクタリングを含む

キャッシュ・フロー



1 市場買い付けにより取得した金額

中期的なキャピタルアロケーションの更新

事業開発や研究開発等、製品創製への資源投下を最優先。
株主還元は、利益成長に応じた増配（累進配当方針）と、余資水準や株価水準に応じた自己株式取得

ストック＋インフロー

資金需要に応じて調達による
インフロー拡大：借入金300億円[1]

営業CF
（研究開発費を除く）
4,200億円

2024年度末
現金
930
億円

余資
480億円

必要運転資金
450億円

アウトフロー

使途		金額（2025～2029年度）	2025年度実績	2026年度予想（第2四半期実績）
成長投資	設備投資	**690億円**	73億円	225億円（59億円）
成長投資	研究開発費	**1,600億円** 開発マイルストーン含む[2]	270億円 うち、R&D費256億円	約350億円 うち、R&D費275億円 （約145億円 うち、R&D費121億円）
成長投資	事業開発投資	**1,800億円～**	事業開発54億円 自社株買い319億円[3]	自社株買い上限350億円[3] ※複数の事業開発案件が進行中
株主還元	追加還元（自社株買い）			
株主還元	配当	**800億円～**	126億円 配当38円/年	129億円 配当42円/年

1 総額300億円のシンジケーション方式による実行可能期間付きタームローン契約を締結　2 2024年度までの投資で今後発生しうる開発マイルストーン　3 市場買い付けにより取得した金額

外国為替レート前提と感応度

為替レート前提

（円）

	2025年度 第2四半期 実績	2026年度 第2四半期 実績	2026年度第2四 半期 vs 2025年 度第2四半期	2025年度 実績	2026年度 通期予想	2026年度 vs 2025年度	2026年度第2四 半期 vs 2026年 度通期予想
USドル	146.23	159.50	109.1%	150.79	155.00	102.8%	102.9%
ユーロ	167.79	184.35	109.9%	174.71	180.00	103.0%	102.4%
中国元	20.39	23.47	115.1%	21.29	23.00	108.0%	102.0%

為替感応度

2026年度業績予想における予想レート比1%円安時の影響

（億円）

	合計[1]	USドル	ユーロ	中国元
売上収益	+15	+0.3	+8.1	+3.6
コア営業利益	+2	-0.4	+1.2	+0.8
営業利益（IFRS）	+2	-0.6	+1.0	+0.8

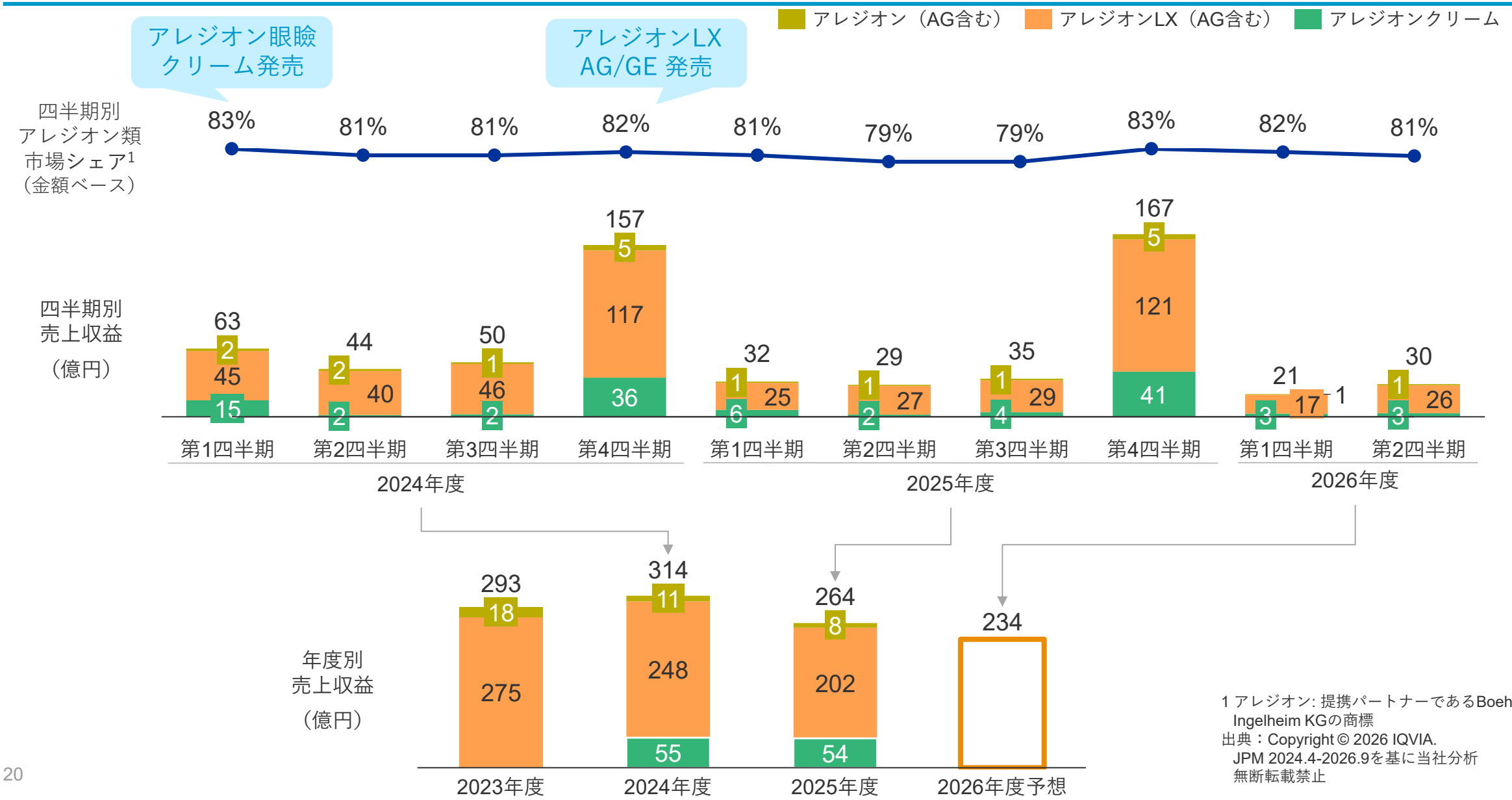
1 上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値（小数点以下四捨五入）

2026年度第2四半期実績為替影響（対前期レート）

（億円）

	合計
売上収益	+74
コア営業利益	+15
営業利益（IFRS）	+14

日本でのアレジオン類の現状



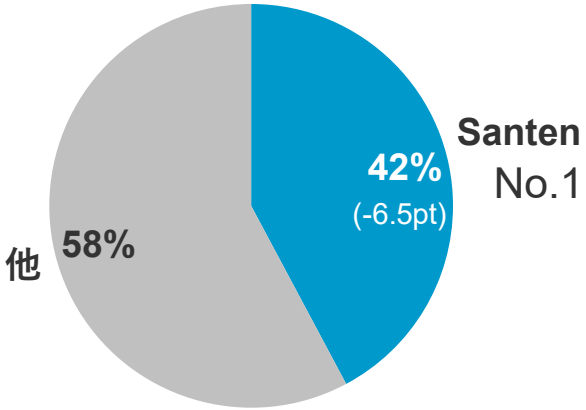
1 アレジオン: 提携パートナーであるBoehringer Ingelheim KGの商標

出典：Copyright © 2026 IQVIA.
JPM 2024.4-2026.9を基に当社分析
無断転載禁止

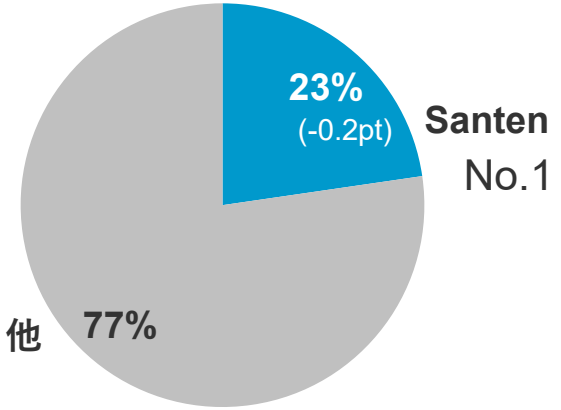
領域右記載数値：市場規模
グラフ：マーケットシェア
（括弧内は前年同期増減）

日本医療用眼科薬　市場概況（2025年10月-2026年9月累計）

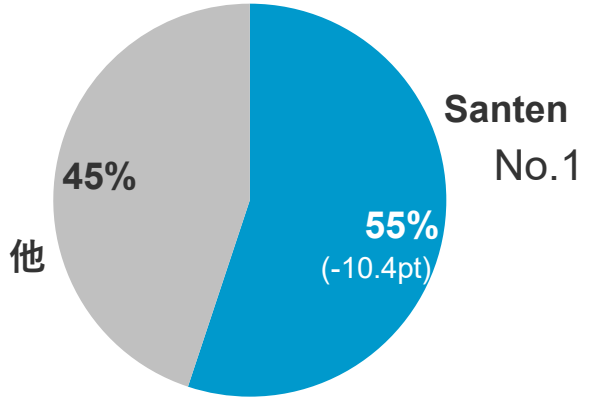
合計：3,555億円



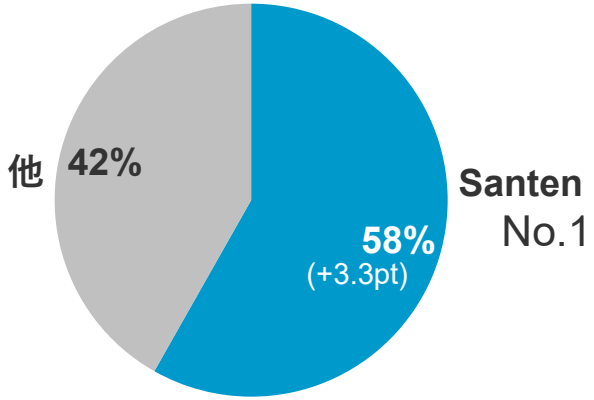
抗緑内障治療剤：698億円



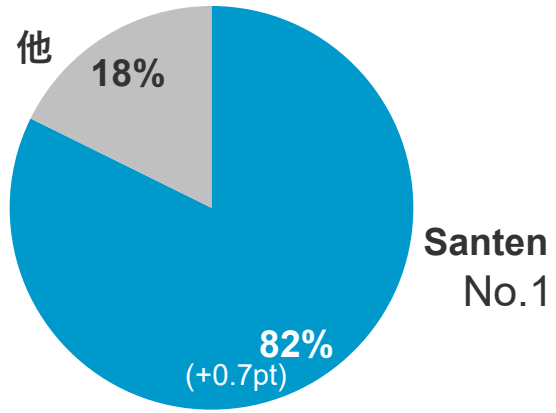
VEGF阻害剤[1]：1,260億円



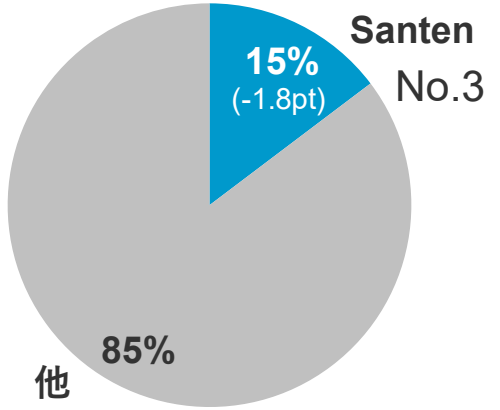
角膜疾患治療剤：303億円



抗アレルギー点眼剤[2]：388億円



抗菌点眼剤：44億円



1 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品（眼科用VEGF阻害剤「アイリーア」「アイリーア8mg」）及びバイエルライフサイエンス株式会社が製造販売元の「アフリベルセプト「バイエル」」を含む。販売会社（参天製薬）ベースでの実績。

2 眼瞼クリームを含む

出典：Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2024.10-2026.9を基に当社分析 無断転載禁止

2026年度第2四半期 R&Dアップデート

新規市場の創出	アトロピン硫酸塩 STN10**127**00/DE-127 リジュセアミニ	近視	中国で、**申請**
	オキシメタゾリン塩酸塩 STN10**138**00/RVL-1201 アップニークミニ	眼瞼下垂	アジアで、**申請** 欧州でのP3試験で、**LPI**[1]
	ニンテダニブ STN10**142**00/CBT-001	翼状片	日本でのP2b試験で、**LPO**[2]
既存市場の拡大	ネタルスジルメシル酸塩 STN10**139**00/AR-13324 ロープレッサ®/Rhokiinsa®	緑内障	日本で、**上市**
	オミデネパグ イソプロピル STN10**117**02 エイベリスミニ	緑内障	中国でのP3試験で、**主要評価項目達成**
	オロダテロール塩酸塩 STN10**141**00	ドライアイ	日本でのP2b試験で、**主要評価項目達成**
	オロダテロール塩酸塩 STN10**141**01	アレルギー性結膜炎	日本でのP1/2a試験で、**LPO**

1 LPI: Last Patient In. 2 LPO: Last Patient Out.

グローバル開発の状況①

（2026年10月現在）
青字は更新情報

緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況[1]	
緑内障	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN10**117**02	中国	現状：P3（主要評価項目達成） 計画：2027年度 申請
	ラタノプロスト Catiolanze	STN10**130**01 DE-130A Catioprost	欧州	現状：上市
			アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認
	ネタルスジル メシル酸塩 ロープレッサ®/Rhokiinsa®	STN10**139**00 AR-13324	日本	現状：2026年8月 上市
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：上市
	ネタルスジル メシル酸塩・ ラタノプロスト （配合剤） Rocklatan®/Roclanda®	STN10**140**03	日本	現状：P3（主要評価項目達成） 計画：2027年度 P3終了

1 試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載。

グローバル開発の状況②

（2026年10月現在）
青字は更新情報

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
アレルギー性結膜炎	エピナスチン塩酸塩（眼瞼クリーム）	STN10**114**02	日本	現状：上市
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	計画：2027年度 申請
	エピナスチン塩酸塩（1日2回点眼）	STN10**114**03	中国	現状：申請 計画：2026年度 承認
	オロダテロール塩酸塩	STN10**141**01	日本	現状：P1/2a 計画：2026年度 P1/2a終了
ドライアイ	オロダテロール塩酸塩	STN10**141**00	日本	現状：P2b（主要評価項目達成） P3試験に向けて計画策定中
	ジクアホソルナトリウム（持続製剤） ジクアスLX	STN10**089**03 DE-089C	アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認
翼状片	ニンテダニブ	STN10**142**00 CBT-001	日本	現状：P2b 計画：2026年度 P2b終了

グローバル開発の状況③

（2026年10月現在）
青字は更新情報

屈折異常領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
近視	アトロピン硫酸塩 リジュセアミニ、Ryjunea	STN10**127**00 DE-127	日本	現状：上市
			中国	現状：2026年9月 申請 計画：2027年度 承認
			アジア	現状：承認 計画：2026年度 上市

網膜疾患領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
糖尿病黄斑浮腫	Eflimrufusp alfa	STN10**143**00 RC28-E	中国	現状：P3 （申請を取り下げ。追加の臨床試験を計画中）
滲出型 加齢黄斑変性	Eflimrufusp alfa	STN10**143**01 RC28-E	中国	現状：P3（主要評価項目達成）
網膜色素変性症	jCell	STN**6000**100	ー	現状：jCyte社P3試験計画策定中

グローバル開発の状況④

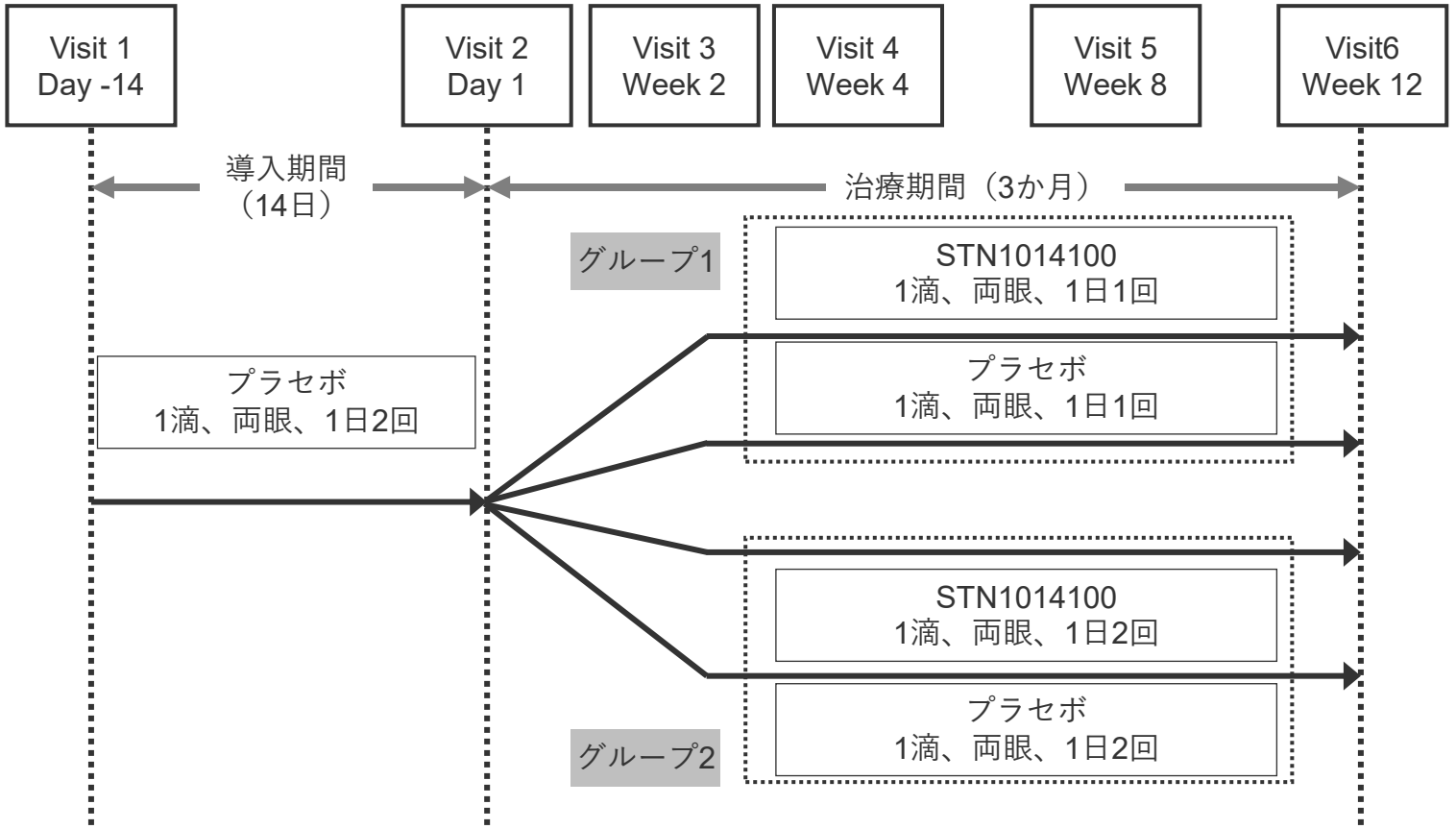
（2026年10月現在）
青字は更新情報

その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩 アップニークミニ	STN10**138**00 RVL-1201	日本	現状：上市
			欧州	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	現状：2026年8月 申請 計画：2027年度承認

STN1014100：ドライアイを対象としたP2b試験プロトコール

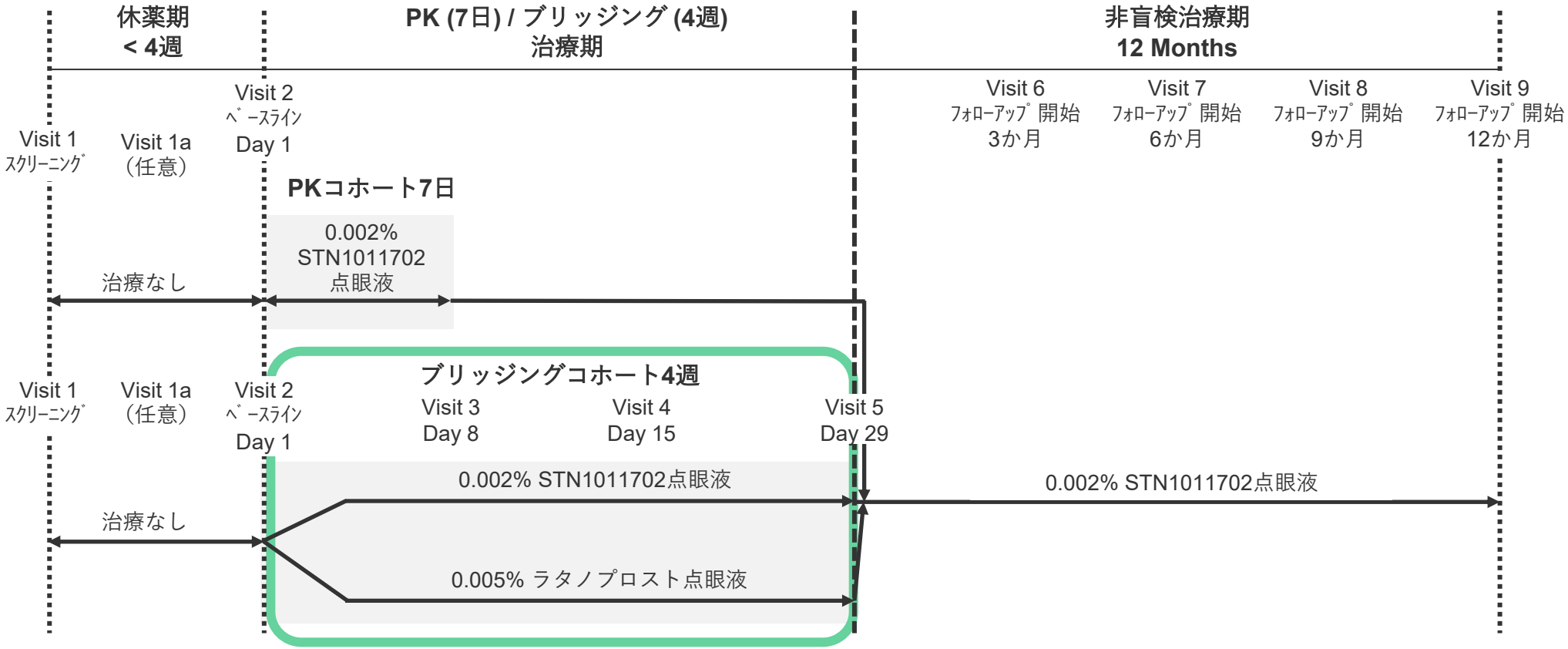
STN1014100点眼液のドライアイを対象としたプラセボ対照多施設共同無作為化二重遮蔽並行群間比較試験
－後期第Ⅱ相、探索的試験－



jRCT2031250105

STN1011702：緑内障を対象とした中国でのP3試験プロトコール

中国での原発開放隅角緑内障または高眼圧症患者を対象に、DE-117B点眼液の有効性および安全性を評価する、単群・非盲検・反復投与PK試験コホート、ならびに長期安全性評価期間を含む無作為化・評価者盲検・実薬対照・並行群間・多施設共同ブリッジング試験コホートから構成される第III相試験



NCT06666855

重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
  医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資勧誘や投資推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。


Santen